

## 新津地区公民館運営審議会 会議概要

### 1 開催概要

- (1) 名称 第9期第2回新津地区公民館運営審議会
- (2) 日時 令和6年2月13日(火)午後3時30分
- (3) 会場 新津地区公民館502研修室
- (4) 出席者
  - ・委員(敬称略): 皆川美穂子(副議長)、阿部正機、小原芳子、金子美和子  
上村修、川瀬雅司、篠原真樹子、相馬真紀子、田中恒夫
  - ・事務局: 【新津地区公民館】小林巧(館長)、今野誠、権平利江子  
【小須戸地区公民館】古川正利(館長)、桑原秀幸

### 2 議事・報告事項

- (1) 令和5年度事業中間報告について
  - ①新津地区公民館
  - ②小須戸地区公民館
- (2) 令和6年度事業計画案について
  - ①新津地区公民館
  - ②小須戸地区公民館
- (3) その他

### 3 概要(意見・質問事項)

- (1) 令和5年度事業中間報告について
  - ・新津のオンライン講座は、講師が外部にいて受講者が一堂に会するのか、参加者も自宅などに分かれて受講するのか。  
→(新津)講師が東京にいて、受講者は会場に集まって一緒に受講する。
  - ・新津の家庭教育学級とシニアライフ講座は、外部の講師にお願いしているのか。また教室の運営は、基になるプランがあってやっているのか、講師に任せているのか。  
→(新津)教室・講座の大まかな枠組みは公民館が考え、それに合う講師を探して相談しながら内容を組み立てている。
  - ・新津の区づくり事業のうち、チャレンジあきは体験隊は8月の暑さにより参加者が少なかったことが伺えるが、10月の里山体験隊も参加が少なかった要因があるか。  
また、小須戸のリバーサイドシネマはとても好評であるとのことだが、その理由も教えてほしい。  
→(新津)チャレンジあきは体験隊は、夏休みの子どもたちをターゲットに8月19日に行った。その日は新津夏祭りの当日であり、相乗効果を狙ったが、思惑が外れた形となった。

里山体験隊は、石油の里のもみじまつりの少し前に実施したが、クマやイノシシが出没しているという報道があつて、保護者が不安を感じたかもしれない。広報手段としては、区役所だよりやホームページのほかSNSも活用した。

→ (小須戸) 要因としては、ビデオレンタル屋さんが無くなってきていることが挙げられる。また、アンケート結果を分析すると、友人に誘われて参加する人が多いようだ。

さらには、大画面・大音量で楽しめることも魅力であるとする。定期的な上映を通じて月に1回友人に会えることも楽しみの一つではないかと分析している。

・里山体験隊にスタッフとして参加し、知り合いに声をかけたが、スポーツ大会や文化行事のため参加できないという人が多かった。

・新津の防災学習会は、どのような内容で実施しているか。

新津の地域交流事業は実施校が増えており、新津第三小学校と小合中学校はこれからのようだが、どのような内容で実施するのか。

→ (新津) 防災学習会は阿賀小学校で実施している。内容は、地震などの災害が発生した時の避難行動について、子どもだけでなく地域の人と一緒に話し合っ

て、いざという時にすぐに反応できるよう、毎年開催されている。新津第三小学校では、市民を対象とした大人向けの講座を2月に実施した。小合中学校については、年度末までに実施するよう内容を検討している。

## (2) 令和6年度事業計画案について

・新津のG I P集会は良い活動なので、今後は事前の企画段階から公民館や地域の皆さんと一緒に作りたい。

・新津のクリーン作戦は、地域の安心安全やSDGsにも重きを置くとのことだが、実施する各町内ではゴミを拾って終わりという所も多いと思う。事業の趣旨をどのように町内へ伝えるのか教えてほしい。

→ (新津) 公民館が事務局をしている青少年育成協議会が主催であり、ゴミ拾いを通じて健全育成を進めているが、近年は小中学生の参加が減りつつある。新しい視点を盛り込むことで、大人からそこに入ってもらい、子どもを連れてきてもらいたい。まずはクリーン作戦のチラシに項目を入れて周知したい。

・新津のゆりかご学級と子育て支援センターが行う同様な事業の日程が重ならないよう、調整してもらいたい。

→ (新津) ゆりかご学級は、全市で年間の日程を調整するので、秋葉区だけでは決められないが、すり合わせはしたい。

・地域教育コーディネーターの枠組みの一つである「学びの拠点」と、公民館の地域交流事業の関係性はどうなっているか。

また、公民館は素晴らしい講師を発掘しているが、地元にいる講師をリスト化できないだろうか。

→（新津）学校と公民館それぞれの目的が達成されるのであれば、片方に寄せた事業ということではなく、お互いを活用して実施すればよいと思う。

→（小須戸）県では、県生涯学習推進センターのホームページ「ラ・ラ・ネット」で、講師の検索ができる。

市では、生涯学習センターの「講師紹介ガイド」や「生涯学習ボランティアバンク登録者名簿」という講師のデータがあり、ホームページや各公民館で見ることができ、お問い合わせがあれば紹介することができる。

・運営審議会の資料に、事業内容や講師について詳しく記載することはできないか。  
→（新津）審議会の資料は、この内容で委員のご意見をいただくものなので、詳しい内容が知りたい場合は別の場でお示しすることとなる。

・新津の現代的・社会的課題の解決として、美術など生涯学習の講座を実施しているが、食品ロスや人権などの課題を取り上げた事業も今後考えてほしい。

・小須戸のドローン操縦や身近な害獣といった事業は、地元の講師で行うことになっており、その講師から公民館活動を紹介してもらえることにもつながるので、非常に良いことだと考える。

・重点項目で、デジタルの活用や利用促進とあったが、両公民館でオンライン講座をどのくらい予定しているか。

また、家にお子さんがいて講座に直接参加することが難しい人は、自宅でオンライン受講ができるようになればありがたいと感じると思う。

→（新津）6年度の講座でオンラインでの実施はまだ決まっていない。各公民館が2つ以上のオンライン講座を行うことを目指している。

将来的には、オンラインでの講座参加も可能としたいし、そういった環境にない方も大切にしたい。

また、オンラインの推進により、他の公民館事業へ資源を振り分けることもできると考える。

→（小須戸）6年度は、家庭教育講演会とこどもプログラミング教室でのオンライン活用を予定している。

オンライン講座の集合形式や個人形式での受講のメリット・デメリットを見極めて、やれることをやっていきたい。

・小須戸では、5年度にこどもとおとなのプログラミング体験会を実施していたが、6年度はこどもプログラミング教室だけとなった理由は何か。

→（小須戸）5年度は、新潟大学の講師と生涯学習センターのボランティアから実施してもらったが、コミ協単位で各地を回っており、1カ所で何回もできないため6年度は実施できない。

### (3) その他

- 中学校の部活動が令和8年度以降に地域移行となり、土日と16時45分以降は部活動として学校が使えなくなる。  
子どもたちが興味・関心のあることを選択していくことになり、運動部門はいろんなところで活動があるが、文化部門は遠くへ行かないと機会がないと思われる。公民館事業そのものでなくても、中学生の活動の場や参加できる可能性があるように感じたので、何らかの形で支援を検討してもらいたい。
- 地域の特性を生かした事業を行うとともに、一つひとつの事業の充実に努めてもらいたい。